

## 2016冬のボーナス予想調査

## 今年のボーナス予想、昨年より消費控えめ

平成28年熊本地震により大きく落ち込んだ熊本県の経済は、地震から7ヵ月が経過し、大型ショッピングセンターの営業再開や操業を停止していた製造業の再開等もあり、緩やかに回復に向かいつつあるようだ。

このような状況の中、当研究所では、熊本県居住者を対象として、第25回目となる今冬のボーナスについてアンケート調査を実施した。

## 【調査結果のポイント】

1. 今年の冬のボーナス予想は、「ほぼ同じ」が65.4%と最も高く、次いで「減りそう」が昨年を5.7ポイント（以下、p）増加の20.0%、「増えそう」は7.2p減少の14.7%となり、昨年に比べて厳しい見通しとなった。
2. ボーナスの使いみちでは、「貯蓄・資産運用」（60.8% 昨年比▲1.5p）が最も多く、「ローン・借金の返済」（30.5% 同▲2.3p）、「生活費補填」（28.4% 同▲1.9p）、「買い物」（28.1% 同▲2.7p）と続いた。
3. ボーナスの使いみちを熊本地震の影響の有無でみると、影響の有無に関わりなく「貯蓄・資産運用」が最も高くなり、次いで、影響を受けた人は、「ローン・借金の返済」（37.7%）、「生活費補填」（28.6%）、「買い物」（26.0%）となった。これに対して、影響を受けていない人は、「買い物」（29.4%）、「生活費補填」（28.2%）、「ローン・借金の返済」（26.3%）と続いた。
4. ボーナスの使いみちとして最も回答の多かった「貯蓄・資産運用」の中で、具体的に選ぶ商品は「預貯金」が90.1%と圧倒的に高かった。
5. ボーナスで買う予定のものは、「洋服」（42.7% 同+0.3p）が最も高く、「靴・バック」（29.1% 同+1.1p）、「食材・おせち料理」（15.4% 同▲2.2p）と続いた。

## 【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内居住20～50代のボーナスを支給される予定の人（世帯）
2. 調査期間：2016年11月1日～7日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：416人
5. 回答者の属性（人・%）

	未既婚			年代				勤務先*			
	全体	未婚	既婚	20代	30代	40代	50代	公務員・独立行政法人	民間事業所・団体 (本社熊本県内)	民間事業所・団体 (本社熊本県外)	その他
全体	416 100.0	121 29.1	295 70.9	104 25.0	104 25.0	104 25.0	104 25.0	69 16.6	230 55.3	108 26.0	9 2.2
男性	208 100.0	57 27.4	151 72.6	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	35 16.8	120 57.7	52 25.0	1 0.5
女性	208 100.0	64 30.8	144 69.2	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	34 16.3	110 52.9	56 26.9	8 3.8

勤務先\*: 未婚者には自身の勤務先を、既婚者には主に家計を担っている人の勤務先を尋ねた

1. 今年の冬のボーナス予想

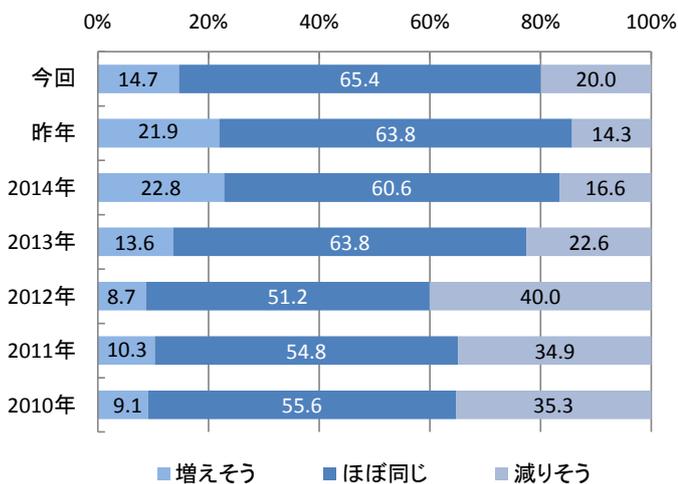
今年の冬のボーナス増減予想は、「ほぼ同じ」が 65.4%と最も高く、次いで「減りそう」が昨年を 5.7p 増加の 20.0%、「増えそう」は 7.2p 減少の 14.7%だった。今回は 3 年ぶりに「減りそう」が「増えそう」を上回り、昨年に比べて厳しい見通しとなった（図表 1）。

次に、支給月数の予想をみると「1.5 カ月分超～2 カ月分以下」が 22.6%と最も高くなった。また、昨年最も高かった「1 カ月分以下」は 6.0p 減少、「1 カ月超～1.5 カ月分以下」は 1.2p 減少に対して、「2.5 カ月分超」は 2.0p 増加するなど、支給月数は改善傾向にあると思われる。しかしながら、「わからない・答えたくない」が 2 割を超えており、支給月数を見通すことができない人も多いと思われる。

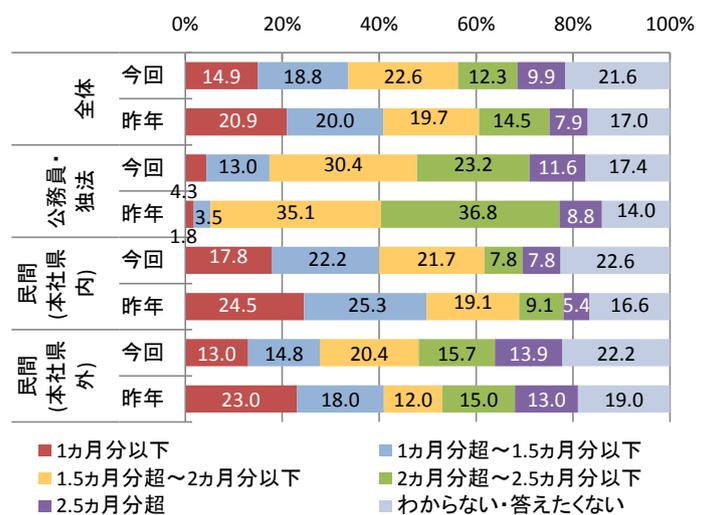
勤務先別にみると、公務員は、「1 カ月分超～1.5 カ月分以下」で 9.5p 増加、「2 カ月分超～2.5 カ月分以下」で 13.6p 減少したことが目を引く。また、県内に本社がある企業は、「1.5 カ月分以下」の合計が昨年より 9.8p 減少し、「1.5 カ月分超～2 カ月分以下」「2.5 カ月分超」で増加している。県外に本社がある企業は、「1.5 カ月分以下」の合計で 13.2p 減少、「1.5 カ月分以上」はすべての月数で増加している。また、「2.5 カ月分超」は 13.9%と昨年に比べて微増だが、勤務先別で最も高かった。

民間企業については、「1.5 カ月分以下」が減少しており、支給月数に改善がみられた（図表 2）。

図表1 ボーナスの増減予想推移



図表2 支給月数予想（勤務先別）



## 2. ボーナスの使いみち

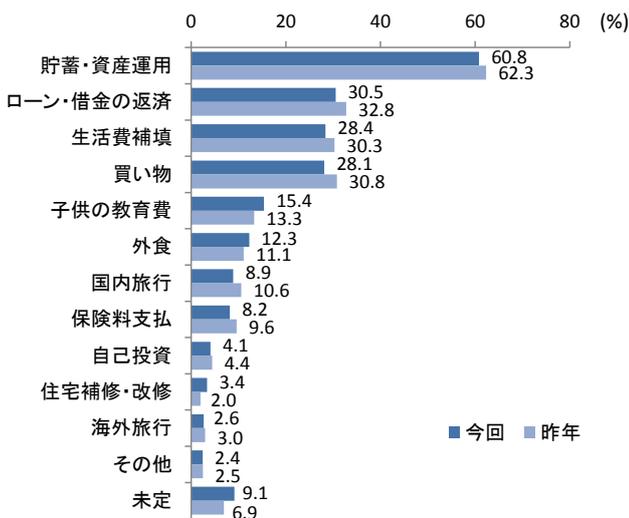
ボーナスの使いみちをみると（複数回答）、「貯蓄・資産運用」が60.8%と最も高く、2番目の「ローン・借金の返済」（30.5%）を大きく上回っている。次いで昨年は4番目だった「生活費補填」（28.4%）が「買い物」（28.1%）を上回り3番目となっている（図表3）。

項目別にみると、わずかではあるが昨年を下回る項目が多く、ボーナスの使いみちにおいて、使いたいと考える項目が増えたようである。そうした中で、増加した項目をみると、「住宅補修・改修」が昨年をわずかに上回っていることが目を引く。熊本地震の影響で自宅の補修を検討している人もいると思われる。

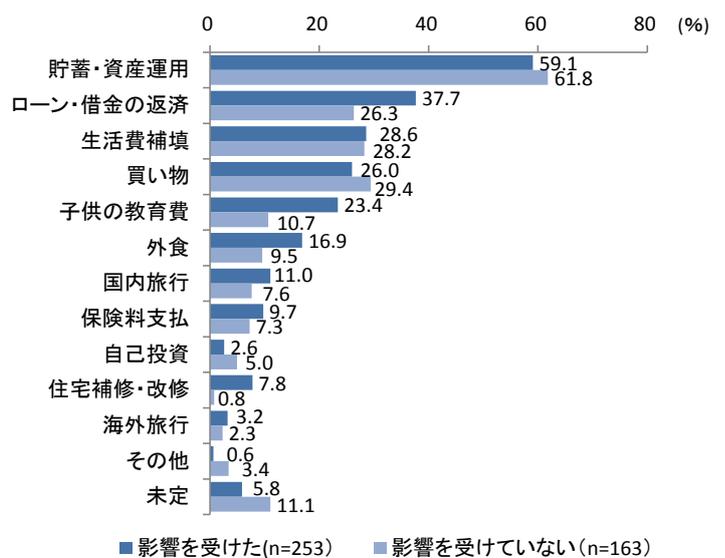
ボーナスの使いみちを熊本地震の影響の有無でみると（複数回答）、影響の有無に関わりなく「貯蓄・資産運用」が最も高くなり、次いで、影響を受けた人は、「ローン・借金の返済」（37.7%）、「生活費補填」（28.6%）、「買い物」（26.0%）となった。これに対して、影響を受けていない人は、「買い物」（29.4%）、「生活費補填」（28.2%）、「ローン・借金の返済」（26.3%）と続いている。

影響を受けた人（253人）と受けていない人（163人）を比較すると、「ローン・借金の返済」「子供の教育費」「外食」「住宅補修・改修」などは、影響を受けた人が上回っている。また、「貯蓄・資産運用」「買い物」「自己投資」などは、影響を受けていない人が上回った。項目別にみると、「住宅補修・改修」は影響を受けた人が7.0p上回り、ボーナスを利用して住宅の補修を計画している人も多いようである（図表4）。

図表3 ボーナスの使いみち（複数回答）

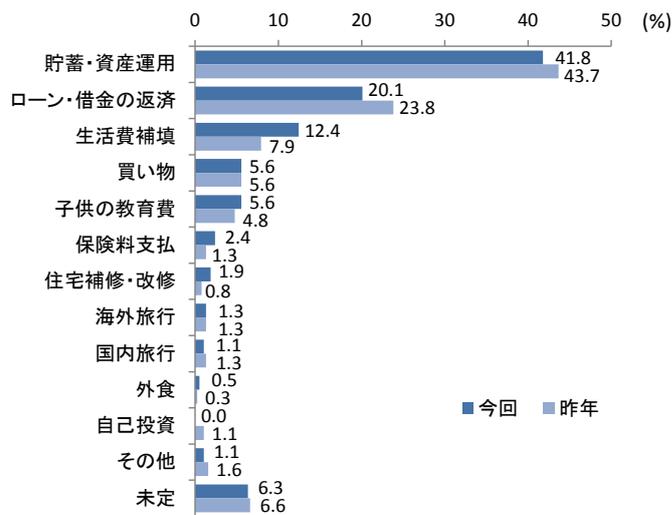


図表4 熊本地震の影響によるボーナスの使いみち（複数回答）



次に、ボーナスの使いみちのうち「最も金額が大きいもの」をたずねたところ、「貯蓄・資産運用」が41.8%、「ローン・借金の返済」が20.1%となり、この2項目で6割を占めている。比率はそれぞれ昨年より減少したものの、まずは貯蓄とローンの返済という傾向は変わらないようである。3番目に多い「生活費補填」は、昨年を4.5p上回る12.4%となった。熊本地震の被災の有無に関わりなく、ボーナスを生活費の補填に充てる金額が大きくなっている人も多いと推察される（図表5）。

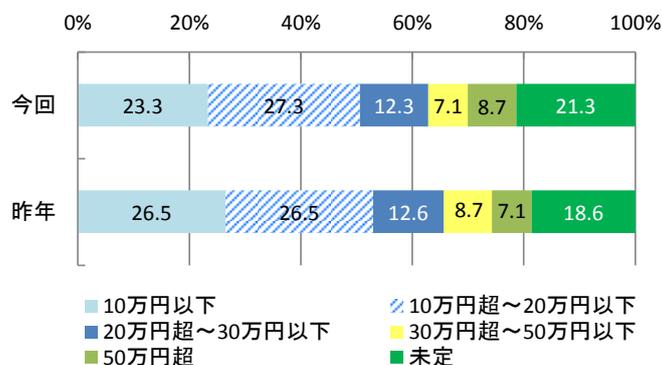
図表5 最も金額の大きいボーナスの使いみち



### 3. 「貯蓄・資産運用」、「買い物」の予定

ボーナスの使いみちとして「貯蓄・資産運用」を選んだ253人に対して、「貯蓄・資産運用」への総額をたずねたところ、「10万円超～20万円以下」が27.3%で最も高く、次いで「10万円以下」が23.3%となり、20万円以下が5割を占めている（図表6）。また、今回は「未定」が前回は2.7p上回る21.3%と2割を超えている。支給額の減額を予想する人も多く、実際の支給額を踏まえて貯蓄額等を検討するようである。

図表6 貯蓄・資産運用への総額  
(今回 n=253、昨年 n=253)

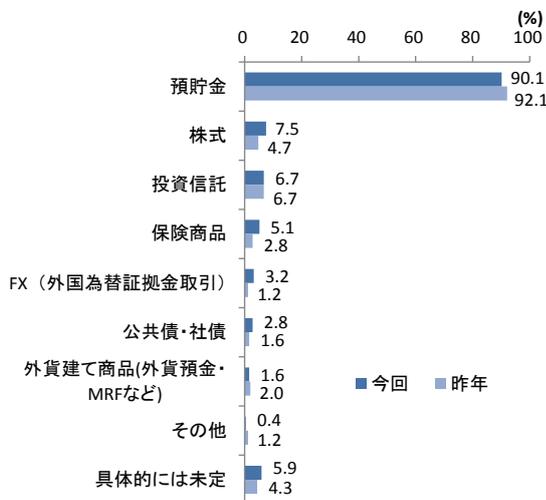


さらに、具体的に選ぶ商品をたずねたところ（複数回答）、「預貯金」が90.1%と最も高くなった。「預貯金」は昨年も9割を超えており、ボーナスはいつでも使えるように蓄えておきたいという意識が強いと推察される。今回は、「株式」や「保険商品」など昨年をわずかに上回る商品も見受けられた。しかしながら、預貯金に比べるとその割合は低く、リスクを避け、安全性を重視する傾向はまだまだ強いようである（図表7）。

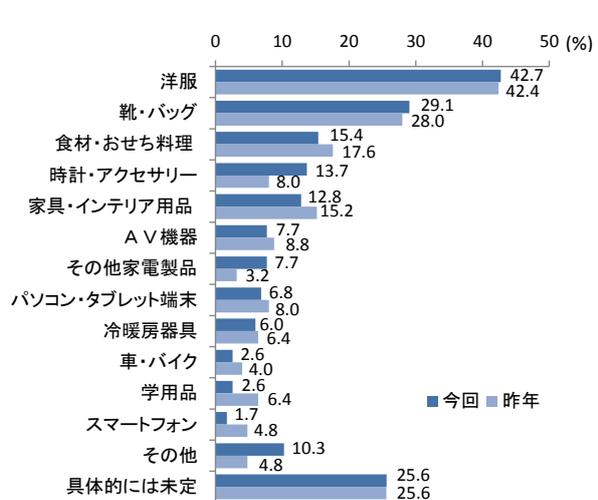
次に、ボーナスの使いみちに「買い物」を選んだ117人に対して何を買うかをたずねると（複数回答）、「洋服」が42.7%と最も高く、以下「靴・バッグ」（29.1%）、「食材・おせち料理」（15.4%）、「時計・アクセサリ」（13.7%）と続いた。項目別にみると、「食材・おせち料理」が昨年を2.2p下回ることが目を引いた（図表8）。

さらに、ボーナスから買い物への支出総額をたずねると、「5万円以下」が37.6%と最も高く、次いで「5万円超10万円以下」が25.6%となり、「10万円以下」は6割を超えている。その一方で、「10万円以上」は2割となっている。また、最も多い「5万円以下」は昨年を4.0p上回っており、買い物に使う金額を減らす人が増加しているようである（図表9）。

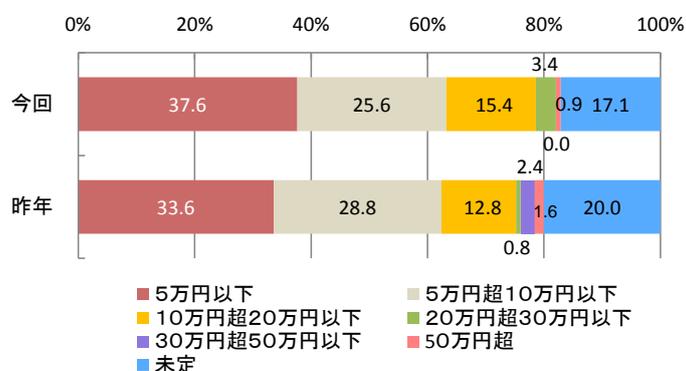
図表7 貯蓄・資産運用で選ぶ商品  
（複数回答 今回 n=253、昨年 n=253）



図表8 買う予定のもの  
（複数回答 今回 n=117、昨年 n=125）



図表9 買い物への支出総額  
(今回 n=117、昨年 n=125)



おわりに

今年の冬のボーナス予想調査においては、支給額の減額を予想する人が増加するなど厳しい見通しとなった。

また、今回のボーナスの使いみちをみると、支出の分散化が見受けられ、昨年に比べてその使いみちは多様化したようである。

熊本地震は、多くの人の生活全般に影響を及ぼしたと考えられ、今冬のボーナスの使いみちに変化をもたらしたようである。

以 上